



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

「国の持つ文化」

校長 永浜 裕之

令和2年1月31日午後11時、イギリスがEUを離脱しました。1948年にチャーチルが語ったように、イギリスは、「英連邦と帝国」「合衆国を中心とする英語世界」「統一した欧州」という「三つのサークル」すべてに加わっている必要があるとされ、チャーチル、サッチャー、ブレアなど、国際社会で英国の影響力を示した歴代宰相は「三つのサークル」から逸脱しないように心がけてきました。現政権は「三つのサークル」すべてを失いつつあるように思います。この苦難を乗り越えられるのか、英国の力を信じ、乗り越えてくれると思っています。

1998年、私は文部省（当時）から命を受け、イギリスの教育制度等を学ぶために、バースという町にあるスパ大学に派遣されていました。バースはBATHと綴り、お風呂という単語の語源となった町で、古代ローマ人が立派な入浴施設を築いた町です。そこで聞いた話を紹介します。

一人の青年実業家がある年の冬、仕事のため、ロンドンのホテルに滞在していました。青年は語ります。

「寒い日で、雪が降っていた。私は眠れずにホテルを出て、公園を一人で歩いていた。その時だった。突然一頭の馬が疾走してきた。驚いた私は、木の影に逃れようとした。ところが、よほど動転していたのだろう。その場で足がもつれて転んでしまった。馬に蹴とばされるか、踏みつぶされるかだ！と覚悟した。

と、その瞬間、誰かが飛び出してきて馬の前に立ちはだかった。良く見れば、15,6歳位の娘のように見えた。その娘が、ものすごい大声を出し、馬に『止まれ』と言った。馬はうまく止まることができず、雪の上をすべって転んだ。疾走する馬も恐ろしかったが、ダーンと何メートルもすべる馬も恐ろしかった。

私は息を殺し、呆然と見ているしかなかった。烈しい勢いで滑った馬が止まると、その娘は馬のところへ駆け寄った。苦しそうに横たわる馬は、娘の身体に比べると山のようなようであった。その馬に向かって、娘は優しく何か語りかけながら、一生懸命、馬の体をさすっている。『立ってごらん、大丈夫。さあ、立ってごらん』、そんな風に言っているようだった。気が付くと、自分はぶざまに転んで、その場にうずくまったままだった。

私は、この娘の何十分の一の勇気もありはしない。そう思いながら、ようやく立ち上がり、馬と娘のもとへと寄っていった。娘は白い手を真っ赤にして、馬の脚や首をさすっている。しばらくすると、馬は落ちついたのか、立ち上がった。娘が手綱を引きずると、馬は脚を引きずりながらも歩きだした。私は、なすすべもなく馬と娘の後を、トボトボとついていった。

向こうから、ひどくあわてた様子の紳士がやってきた。娘はその紳士を認めるや否や、大声で怒りだした。母親がいうことをきかない息子を怒鳴りつけるような迫力だった。その紳士が、馬を興奮させ、疾走させた張本人らしかった。私は、野次馬気分で、事の成り行きを見ていた。『あなたはどうして、この馬をこんなにエキサイトさせるのか』と言って、りゅうとした身なりの紳士を、見るからに質素な身なりの娘が叱りつけている。私は娘の叱声以上に、紳士の出方に興味があった。罵倒された紳士が、どんな態度をとるのか、私は固唾を呑み、娘と馬と紳士を見ていた。娘の叱声が終わらないうちに、紳士は帽子を脱いだ。そして、『すべて自分の責任である。申し訳なかった。』と丁寧に謝った。

小さな娘に、帽子を脱いで頭を下げている紳士、それは感動的な光景だった。同時に、イギリスという国は素敵な国だと思った。」。ざっと、このような話でした。

イギリスは、大英帝国を誇った時代に比べると、見るかげもなく小さな国になりました。しかし私は、この話を聞き、文化的には、まだまだ、極めてしっかりとした基盤を持っている国だなと再認識しました。

ひるがえって、現在の日本を見ると、文化という視点で、さまざまな問題が生じてきているような気がします。同じような事件があったとき、日本ではこのような情景になるのでしょうか。いたずらに周囲の目を気にしてこの紳士のように素直な謝罪の気持ちを表す勇気が出せないのではないかと思います。日本にもイギリスと同じような文化の底流があります。しかし、文化を継承するために、辛いことでもあえて行う覚悟と、実行する心のゆとりが薄れているような気がします。これは、一人一人の自覚と実行に待つしかありません。

国の価値というものは、軍事的に強いとか、経済的に豊かであるとかだけではなく、国民それぞれが、どれほどの文化を、自分の血や肉として持っているか、また、そのことを誇りとして感じているかという点も大切であると思います。私たち一人一人が、日常生活の中で、この紳士や娘のような気持ちを持ち、行動をとれるか、また、とろうと努力していけるか。自問自答してみたいと思います。

◇東京都立高等学校定時制通信制課程芸術祭展示部門◇

令和3年度東京都立高等学校定時制通信制課程芸術祭展示部門美術書道写真の展示が東京都美術館にて行われました。昨年度は開催できませんでしたが今年度は関係者の努力により、無事開催されました。

この日のために生徒たちは、美術・書道・写真作品を、それぞれのテーマで制作し、本校から14名が作品を出展しました。素晴らしい作品たちです。表現の瑞々しさを感じ芸術の萌芽を感じました。

また、以下の6名が賞を受賞しました。

芸術の秋がやってきました。何か制作してみよう、やってみようと思ったが吉日、表現は全ての人に開かれています。

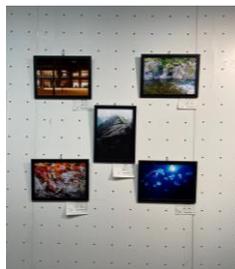
○書道部

- 金賞 熊丸 武真 さん
- 銀賞 青木 遥香 さん
- 銅賞 笹本 蒼衣 さん
- 銅賞 高谷 奏子 さん



○写真部

- 銅賞 黒坂 行 さん



○美術部

- 銅賞 永野 ひかり さん



金融教育 公開授業

通信制公民科 滝田大樹

10月9日の現代社会、総合的な探究の時間で、金融教育の公開授業を実施しました。公開授業の様子は、「NHKおはよう日本」でも報道されました。

【現代社会（2時限目）の様子】

投資ゲームを通じて、ESG投資の理念を理解し、金融の社会的役割について、多角的・多面的に考える授業を展開しました。「個人がお金を増やすこと」と「社会に貢献すること」の二つの投資の役割を理解させ、投資に関する価値観を育成できたと思います。



—生徒からの感想—

- ・投資がどのようなものか、グループワークを通して体験できてよかったです。
- ・投資は、お金持ちの人だけがするような、難しいことだとおもっていたけど、大まかな仕組みを知って、少し身近に感じられた。
- ・長期的に利益を得る形で企業の支援のためにESG投資をしてみてもいいかなと思った。

【総合の授業の様子】

講師に住田裕子先生をお招きし、多様化する消費者トラブルの現状について、実例を踏まえながら理解し、消費者被害の防止・救済について学びました。



—生徒からの感想—

- ・弁護士での体験も含めて貴重な話をたくさん聞いてタメになった。
- ・犯罪被害や詐欺について、私は引っかけりそうになったことがあったので、とても対策になった。
- ・受験勉強ばかりではなく、社会人になって必要である金融の知識は重要だと実感しました。

公開授業や金融教育に関わる活動は、生徒にとって、これまで以上に金融や経済の分野に興味・関心を持ち、自分の暮らしや社会について深く考えるきっかけになったと思います。

定時制課程 学校行事予定

- 11月6日（土）東京都教育の日、週休日
- 23日（火）勤労感謝の日
- 26日（金）自己探索学習⑦
- 12月1日（水）後期中間考査時間割発表
- 8日（水）～14日（火）後期中間考査
- 15日（水）履修説明会
- 16日（木）山吹祭準備
- 17日（金）山吹祭準備
- 18日（土）山吹祭
- 20日（月）振替休業日
- 22日（水）成績会議 ※生徒登校禁止
- 23日（木）履修個別指導
- 24日（金）全校集会、卒業予定者連絡会
- 26日（日）冬季休業開始
- 1月7日（金）冬季休業終
- 10日（月）成人の日
- 11日（火）授業開始

通信制課程 学校行事予定

- 11月6日（土）東京都教育の日、スクーリング2-5
- 13日（土）スクーリング2-6
- 20日（土）スクーリング2-7
- 21日（日）学校説明会
- 23日（火）勤労感謝の日
- 27日（土）スクーリング2-8
- 12月4日（土）スクーリング2-9、避難訓練
- 11日（土）スクーリング2-10
- 18日（土）山吹祭
- 25日（土）スクーリング2-11
- 26日（日）冬季休業開始
- 1月7日（金）冬季休業終
- 8日（土）スクーリング2-12
- 10日（月）成人の日